機関誌

ぜんない

令和8年 10月
第82号



石の間に隠れるヨシノボリ

漁業者（会員漁連の傘下漁協組合員）　年間契約［四回発行］定価三、三〇〇円（本体三、〇〇〇円）送料サービス　単品 定価八二五円（本体七五〇円）送料別
漁業者以外の購読者　年間契約［四回発行］定価四、四〇〇円（本体四、〇〇〇円）送料サービス　単品 定価一、一〇〇円（本体一、〇〇〇円）送料別

CONTENTS

全内漁連開催の各会議について
　総務委員会、理事会を開催 ——2
　ブロック会議を開催 ——2
　外来魚対策事業の第１回検討委員会を開催 ——3
　みんなでやるぞ内水面漁業活性化事業の
　　総合評価検討委員会等を実施 ——4
第 25 回全国川づくり標語コンクール ——6
第 49 回全国養鱒技術協議会 ——8
内水面漁業振興議員連盟の現地視察が開催される ——10
全国内水面養殖振興協会が水産庁長官へ要望書を提出 ——11
我が種苗センター（日野川水系漁業協同組合） ——12
気になる研究結果（国研 水産研究・教育機構水産技術研究所） —14
気になる研究結果（神奈川県環境農政局農水産部水産課） ——16
みんなでやるぞ内水面！（青森県内水面漁業協同組合連合会） —18
アマゴ釣り投稿キャンペーンについて（岡山県農林水産部水産課） ——20
マスの卵は世界をめぐる ——22
「魚食」と「文化」にまつわる戯言 ——24
漁協組合員を紹介します（岐阜県　長良川漁協） ——25
内水面漁協（第 52 回） ——26
愛しきアユ（第 55 回） ——27
漁場生産力・水産多面的機能強化対策支援委託事業 ——28
日光支所から ——29
新会長の紹介 ——30
全内の会員組織変更について ——30
業務日誌 ——30
職員のつぶやき ——31
新聞記事から ——31
編集後記 ——31

全国内水面漁業協同組合連合会

刊行物案内



**新著「マスの卵は世界をめぐる
釣り人の執念と鱒移殖の文化・技術史」**

錦織則政(著)

19世紀から20世紀前半にかけてマス釣りに魅せられた人々が、英国で、植民地で、アメリカで、そして日本で釣りを楽しむために、工夫を凝らしてマスの受精卵を各地に運び入れ、定着させるまでの歴史と釣り人たちの執念に、たんねんな史料発掘で迫った１冊

本体3,600円+税10%　定価3,960円
A5判上製　192頁　2026年6月刊行

問い合わせ先：**築地書館**
電話番号：03−3542−3731
FAX番号：03−3541−5799
HP:https://www.tsukiji-shokan.co.jp/

機関誌 ぜんない 第82号

全国内水面漁業協同組合連合会機関誌
令和8年10月発行

発行人：全国内水面漁業協同組合連合会
　　代表理事会長　谷 公一
編　集：本所　機関誌編集委員会
発行所：全国内水面漁業協同組合連合会
　〒101-0044
　東京都千代田区鍛冶町1丁目10番4号　丸石ビル4階
　TEL：03-6260-9595　FAX：03-5296-2030
　ホームページ：https://www.naisuimen.or.jp
印　刷：鵜川印刷株式会社
　〒923-0053 石川県小松市河田町丁33番地

漁場生産力・水産多面的機能強化対策支援事業委託事業

●技術サポートのご案内

日々河川清掃やモニタリング作業など、より良い川づくりのためにご尽力されている活動組織の皆様には改めて敬意を表します。本会では活動組織の皆様の活動をサポートするために、水産庁からの委託事業により、サポート専門家による個別サポート指導を行っております。「モニタリングの方法を教えてほしい」、「水生生物の同定方法を知りたい」、「外来魚や外来植物の駆除方法を知りたい」など、活動での様々な悩みや疑問などがありましたら、専門家による指導を受けて、円滑に活動が進むことを期待いたします。

なお、個別サポートにかかる費用負担は一切ありません。

●活動組織への個別サポート指導を実施しました

「上小水産多面的機能発揮対策事業活動組織」

令和8年7月31日（金）に、長野県上田市の活動組織「上小水産多面的機能発揮対策事業活動組織」からの依頼で個別サポート指導を実施しました。桐生透サポート専門家とともに上小漁業協同組合を訪問し、北條組合長、小林副会長、土屋事務長、県漁連の藤澤参事と面会しました。

本活動組織は、千曲川での河川清掃や外来魚の駆除、小中学生への環境学習を熱心に行っており、活動に携わる人材不足が問題となっている昨今、地元の企業がボランティアとして自主的に参加していることや、千曲川流域の自治体や漁協、大学が連携して組織された「千曲川の恵みを取り戻す会」において、地域ぐるみで活動を進めています。

今回、9月7日に東京で開催される「漁場生産力・水産多面的機能強化対策講習会」で事例紹介を行うこととなり、活動組織が行っている様々な活動をサポート専門家の視点で評価していただき、今後の活動につながる有益な指導の機会となりました。



●令和8年度　漁場生産力・水産多面的機能強化対策講習会　全国講習会

9月7日（月）と8日（火）に、浜松町のAP浜松町において公益社団法人全国豊かな海づくり推進協会主催の漁場生産力・水産多面的機能強化対策講習会の全国講習会が開催されました。

このうち7日午前の第1部総合部会において、本研修会のテーマである「PDCAサイクルを反映した自己評価表」について長野県上田市の「上小水産多面的機能発揮対策事業活動組織」の土屋事務長が事例紹介を行いました。

会場やWeb参加者のほとんどが海面関係者のなか、本活動組織の活動場所である千曲川の紹介や活動内容、現場での課題について説明され、活動をルーティン化させずに常に改善と持続的な取り組みを心がける姿勢を全国の水産多面関係者へ示しました。会場で受講していた海の活動組織の方から河川ゴミの種類に関する質問があり、講習会終了後も、ともに水辺の清掃活動を担う者同士、フィールドの違いを超えた情報交換がなされました。

講習会のテキストは、水産多面事業のポータルサイト「ひとうみ.jp」内のサポート情報のページからご覧いただけます。





外来沈水雑草抑制実験への協力

岡山大学農学部を主体として実施した、外来沈水雑草の発生を抑制するための実験に協力を行いました。実験は令和8年7月中旬から9月中旬の間行われました。休暇村日光湯元前の清水と砂浜の間に、5ｍ四方の汚濁防止フェンスで囲んだエリアを設置、水草が光合成を行う朝7時頃から数分間、エリア内で濁りを発生させます。濁りを発生させることで、水草の光合成を阻害し沈水雑草の生育を抑制しようとするものです。

繁殖力の強い外来性水性雑草は、ルアーや針が水草に絡まるトラブルや舟の通行阻害の要因でもあり、その防除法の確立が、在来種の保護・生物多様性の回復・水域環境の改善とあわせ、釣りの環境改善にも繋がります。

実験期間中は、調査および実験区域の確保のため、釣りエリアの一部について利用を制限し、全内のＨＰにて周知を行いました。



湯ノ湖釣り大会

8月1日に、湯ノ湖夏の釣り大会「サマートラウトフィッシングフェスタ」を開催しました。大会は曇り空のもとでスタート、検量を行った正午頃には小雨が降り始めましたが、表彰式までには雨も上がりました。

曇天で気温が上がり過ぎない絶好のコンディションの中、１９０人あまりの釣り人が本大会に参加いただき、盛会の内に終えることができました。

また、今年度より小学生券は、小中高生券として中高生にも対象を拡大したことに伴い、小学生の部をリニューアルして「小中高校生部門」として開催しました。ルアーで47・2㎝のニジマスを釣り上げた方が初代チャンピオンに輝きました。

湯ノ湖での体験会

8月23日に、昨年に引き続き、ＪＦＡ（日本フライフィッシング協会）関東支部が開催したフライフィッシング体験会に協力しました。体験会ではフライフィッシング未経験者を募集、参加者は、フライタイイング（毛鉤作り）教室とキャスティング教室で学んだ後に、湯ノ湖にてマンツーマンで釣りを体験しました。



小中高校生部門で入賞された皆様

リバークリーン

禁漁後の10月4日（日）に、釣り人と協働で「湯川・リバークリーン」を行います。参加者には、記念バッチの配付を予定しています。

水辺に木々の多い湯川では、枝先に釣り糸がからむことが多く、川の中に入ったり木に登ったりして釣りゴミの除去作業を行う必要があり、湯川に感謝し水辺環境を守るため、毎年釣りシーズンが終わった時期に川の清掃を行っています。

9月19日には「ファイナルトラウトフィッシングフェスタ」を行い、湯ノ湖・湯川では、9月30日をもって釣りの期間が無事に終了しました。